

〔多識編^二臨草〕著米土久左、今案米登岐。

〔古名錄^{十六}山草〕米止^{新撰}字鏡 漢名著^本 今名ハゴロモ。

〔重修本草綱目啓蒙^十臨草〕著 アシクサ古名 メドクサ同上 メドギノコギリサウハゴロ

モ ガンギサウ モシホグサ カラヨモギ 勢州 ヤマクサ江州 サシヨモギ 備前 コサ

ンシチ チドメグサ 同上 ノコギリバ 越前 一名聚雪^{那代} 龜藉^{法言} 靈草^{類書} 纂要

種樹家ニ多ク栽ユ、宿根ヨリ數十莖叢生ス、高サ四五尺、葉ハ潤サ四五分許、長サ三四寸、細ク深ク

キレ、鋸齒多シテ繁密ニ互生ス、夏月莖端ニ小枝ヲ多ク分チ、數十百花攢簇シテ蓋ノ如シ、一花ノ

大サ三四分、五六瓣ニシテ中ニ黃心アリ、瓣ハ淺紫色ナリ、又紅アリ、白アリ、白花ノ者ハ野生アリ、

紅ナル者ハ北土ニ自生アリ、是真ノ著ナリ、コノ草莖正直ニシテ枝ナク、年ヲ經レバ一根五十莖

ニ過グ、凡筮占ヲナスモノハ此莖ヲ用ベシ、今ハメドハギヲ代用ス、メドハギハ救荒本草ノ鐵掃

帚、拾遺記ノ合歡草一名神草ナリ、此草モ一科ニ叢生シテ莖直ナリ、葉ハ雞眼草^{ヤブズクサ}葉ニ似テ細長ク

互生ス、秋月葉間ゴトニ一花ヲ開ク、形胡枝子^{ハギ}花ノ如ニシテ色白シ、

〔草木育種後編^下品〕著^{はらうもく}本 春月根の傍より生ずるを分け植てよし、花に紅と白とあり、插花に

用ひ、蘭家にて莖葉を用ふ、糞水を澆てよし、

〔新編常陸國誌^{六十}土産〕著草

筑波村民家ノ東ニ原アリ、夫女原ト云、夫女石アルユヘニ名トセルナリ、^{詳ニ筑波山ノ下ニ出ス}其東ニ岳ア

リ、龜之岳ト云、山ノ形龜甲ニ似タルヲ以テ名トセリ、コノ岳著ノ名産ナリ、一株百莖ノ下ニハ、必

龜アリテ負ト云リ、龜岳ノ名亦合ヘリ、然レドモ一株百莖ハ甚マレニシテ得難シ、丹波ノ龜山ト

コノ山トハ、日本著ノ名産ニシテ、易家者流ノ信用スル所ナリ、土人毎年七月七日ノ夜、是ヲ探テ

夫女石ノ上ニ晒シ用ユ、蓋陰陽和合ノ理アルヲ以テナリ、